

JTOWER

2024年度 第2四半期 決算説明資料

2024年11月14日

株式会社 J T O W E R

**Infra-Sharing
Services
from Japan
Lead the World**

日本から、世界最先端のインフラシェアリングを。

日本は、通信インフラシェアリングの分野においては世界で後発です。

2012年、私たちは“インフラシェアリング”という言葉も一般的ではなかった日本でこの事業を立ち上げました。

海外のインフラシェアリング事業者が“やっているようなこと”ではなく、“やっていないようなこと”をやる。

世界的にみてもネットワーク品質が高い日本の携帯インフラの領域で鍛えられながら最善を尽くしたサービスを提供する。

通信事業者様、不動産事業者様、協力会社様をはじめとした全てのステークホルダーに対して誠実に対応する。

常に自己変革を行い、新しいこと、世界展開にもチャレンジする。

技術、サービス品質、ビジネスモデルといった面で“世界最先端”を追求する。

その結果として、世界から模範とされるようなインフラシェアリングを提供し、社会が必要とする未来をつくっていく。

これが、私たちの追い求めるビジョンです。



<表紙、目次、ビジョン背景写真> NTTドコモより譲り受けた鉄塔（長崎県長崎市野母町）

目次

1. 2024年度 上期業績
2. 今後の成長に向けた取り組み
3. 2024年度 通期予想（8/14公表資料再掲）
4. Q&A

**Infra-Sharing
Services
from Japan
Lead the World**

売上高は前年同期比+61%の77億円

- 前年上期対比では、タワー、国内IBSの事業規模の拡大により増収
- 売上高に占める事業別の構成比は、国内IBS事業 34%、タワー事業 59%
- 一方、四半期推移では、主にタワーの移管が収束してきたことから、Q1とQ2の比較で+7%の増収

上期において、利益は計画通りに推移

- EBITDAは売上拡大に伴い、前年上期対比+54%、EBITDAマージンは46%
- 固定資産税や支払利息の増加による利益への影響は、期初計画通り
- 四半期推移において、Q2の営業利益がQ1を上回っている理由は、タワー売上拡大による売上総利益の増加に加えて、以下の一過性要因によるもの

- ① Q2における一過性売上の計上（電気代精算・Wi-Fi単発案件等）
- ② Q1における支払報酬の増加（決算関連費用等の一時的な増加）

① 2024年度上期 主力事業ハイライト（タワー事業）

JTOWER

(本数)

タワー事業	【実績】2024年度 上期			【予想】2025年3月末		
	上期進捗	期末累計	テナンシーレシオ (x)	期末累計	テナンシーレシオ (x)	
ドコモ大型	221	5,682	1.00	5,690	1.04	1.07
ドコモ中型	1,108	1,320		1,447		
NTT東西	1	87		160		
新設（ルーラル） <small>※売上ベース</small>	13	122		140	2.89	
合計	1,343	7,211		7,437		

- ✓ ドコモ大型鉄塔は、5,682本で移管が終了（残り320本は移管作業を中止）
- ✓ ドコモ中型鉄塔の移管が順調に推移し、9月末時点で85%の移管が完了
- ✓ 新設のルーラルタワーは、売上ベースでのテナンシーレシオが1.48に拡大

① 2024年度上期 主力事業ハイライト（国内IBS事業）

（物件数）

国内IBS事業	【実績】2024年度 上期			【予想】2025年3月末	
	上期進捗	期末累計	テナンシーレシオ (x)	期末累計	テナンシーレシオ (x)
4G IBS（新規導入）	20	424	3.0	457	3.0
4G IBS（リプレイス）	3	49	1.0	100	1.1
5G IBS	6	130	1.6	154	1.7
合計	29	603		711	

- ✓ 4G IBS（新規導入）のテナンシーレシオが、初の3.0xを達成
- ✓ 2024年度上期において、4G、5Gの導入物件数は、合計で29物件増加し、国内IBS事業の累計導入済み物件数*1は、603物件に拡大

*1: 4G IBS（新規導入）、4G IBS（リプレイス）、5G IBSの合計

① 2024年度上期 連結業績概況 – PL

- タワー事業、国内IBS事業の規模拡大により、売上高およびEBITDAが増加
- 固定資産税、支払利息等の増加に加えて、TOB関連費用（特別損失）を計上したため、営業利益以下が減少

(百万円)	2023年度	2024年度		
	上期実績	上期実績	前年同期比	
			増減	%
売上高	4,778	7,704	+2,926	+61.2%
EBITDA *1	2,273	3,509	+1,235	+54.3%
EBITDA マージン	47.6%	45.5%	- 2.0pt	—
営業利益	428	241	- 187	-43.7%
営業利益率	9.0%	3.1%	- 5.8pt	—
経常利益	195	-324	- 520	—
非支配株主に帰属する当期純利益*2	7	-248	- 256	—
親会社株主に帰属する当期純利益	116	-407	- 523	—
設備投資に係る投資CF *3	-47,697	-21,507	+26,190	—

*1: EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却額+長期前払費用償却額

*2: グループ外の優先出資者に帰属する会計上の損益

*3: 有形固定資産及び無形固定資産の取得を含めた数値

① 2024年度上期 連結業績概況 – BS①

- 長期借入金の早期弁済及び4G IBS（リプレイス）の拡大に向けた共用装置の調達（建設仮勘定として認識）により、現預金が減少
- タワー移管の進捗に伴い、有形固定資産（建物及び構築物）及び有利子負債が増加

(百万円)	2023年度	2024年度	
	2024年3月末	2024年9月末	増減
流動資産	33,909	28,247	- 5,661
現金及び預金	30,685	25,402	- 5,282
売掛金	644	492	- 152
固定資産	112,711	128,186	+ 15,474
有形固定資産	110,385	125,457	+ 15,071
建物及び構築物	96,900	110,398	+ 13,498
機械装置及び運搬具	10,116	10,797	+ 680
建設仮勘定	2,015	2,927	+ 911
のれん	316	327	+ 10
資産合計	146,620	156,434	+ 9,813
主要財務指標			
有利子負債	69,677	79,505	+ 9,828
純有利子負債	38,991	54,102	+ 15,111
自己資本比率	21.0%	19.8%	- 1.2pt
<調整後> 自己資本比率*1	37.1%	37.2%	+ 0.1pt

*1: 非支配株主からの出資額を含めて算出

① 2024年度上期 連結業績概況 – BS②

- タワー移管により長期借入金が増加、また、優先出資に伴い非支配株主持分が増加

(百万円)	2023年度	2024年度	
	2024年3月末	2024年9月末	増減
流動負債	24,025	25,266	+1,241
買掛金	720	646	- 74
短期借入金 *1	2,456	6,187	+3,731
未払金	8,992	6,135	- 2,857
契約負債	10,598	11,319	+720
固定負債	68,137	73,766	+5,629
長期借入金	66,295	72,473	+6,178
負債合計	92,163	99,033	+6,870
純資産合計	54,457	57,400	+2,942
資本金	16,584	16,592	+8
資本剰余金	15,371	15,436	+65
非支配株主持分	23,632	26,391	+2,759
負債及び純資産合計	146,620	156,434	+9,813

*1: 1年内返済予定の長期借入金を含む

① 2024年度上期 連結業績概況 – CF

- 前上期と比較して、タワー移管が落ち着いた事により、タワー取得に関連する収入・支出が共に減少/ また、長期借入金の早期弁済等として、約46億円を支出

(百万円)	2023年度	2024年度	
	上期実績	上期実績	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,812	2,622	+809
内) 契約負債の増減額 ("-"は減少)	1,199	718	- 480
内) 減価償却費	1,824	3,245	+1,421
内) のれん償却額	18	19	+1
内) 利息の支払額	-267	-579	- 311
投資活動によるキャッシュ・フロー	-47,795	-21,354	+26,441
内) 有形固定資産の取得による支出	-47,084	-21,110	+25,974
内) 無形固定資産の取得による支出	-613	-397	+215
フリーキャッシュフロー	-45,983	-18,732	- 27,251
財務活動によるキャッシュ・フロー	49,939	13,323	- 36,616
内) 長期借入れによる収入	32,890	13,248	- 19,642
内) 長期借入金の返済による支出	-339	-4,565	- 4,226
内) 支払手数料の支払額	-212	-13	+199
内) 非支配株主からの払込みによる収入	14,260	2,911	- 11,348
現金及び現金同等物の換算差額	47	21	- 25
現金及び現金同等物の増減額 ("-"は減少)	4,004	-5,387	- 9,391
現金及び現金同等物の期首残高	23,603	29,850	+6,246
現金及び現金同等物の期末残高	27,608	24,463	- 3,144

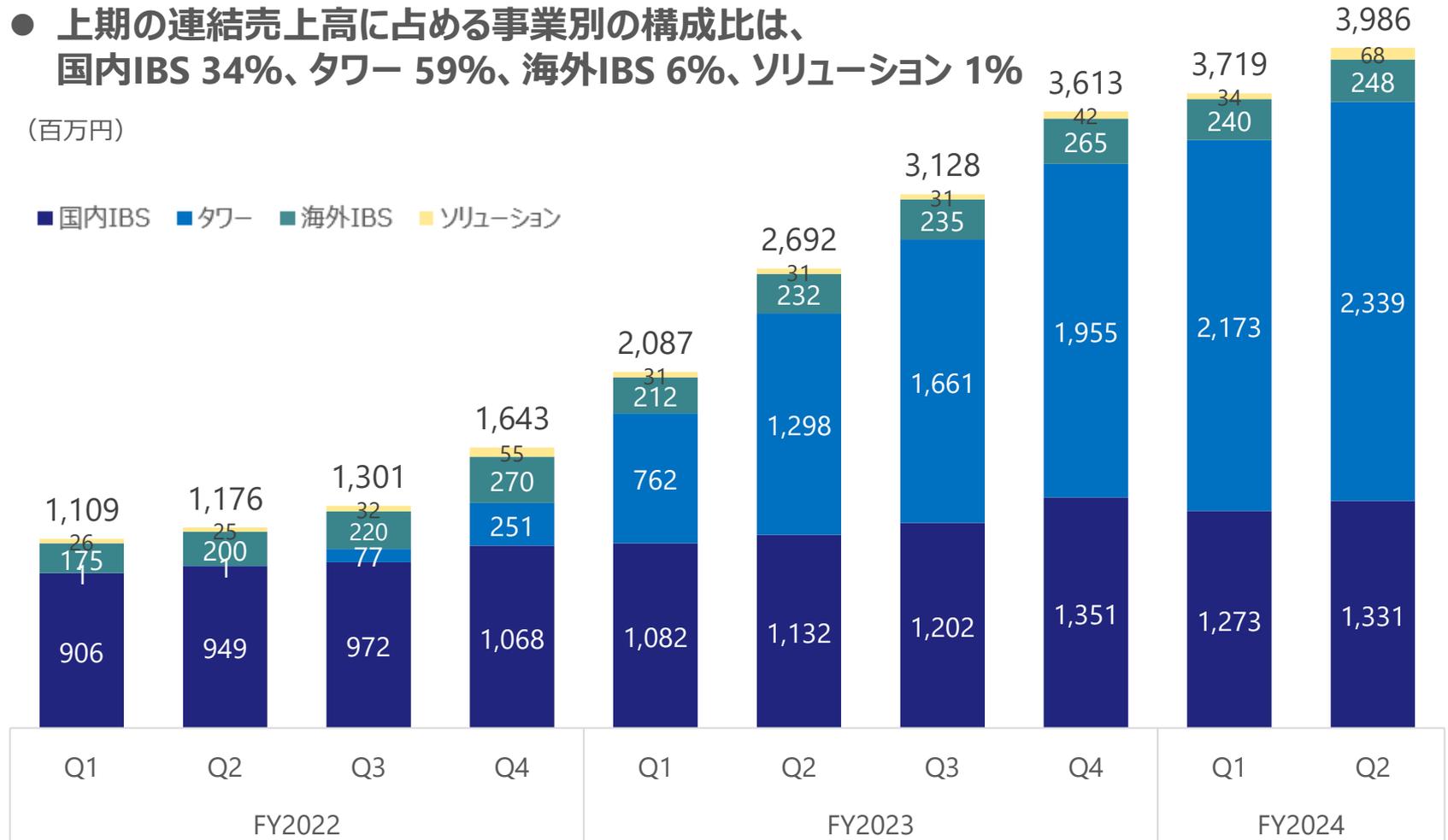
*1: 1年内返済予定の長期借入金を含む

① 事業別売上高の推移

- 前年上期対比で、タワー事業の売上は**2.2倍**に拡大、国内IBS事業は**+18%**の増収
ソリューション事業は、Wi-Fi売上の計上（一過性）により増収
- 上期の連結売上高に占める事業別の構成比は、
国内IBS 34%、タワー 59%、海外IBS 6%、ソリューション 1%

(百万円)

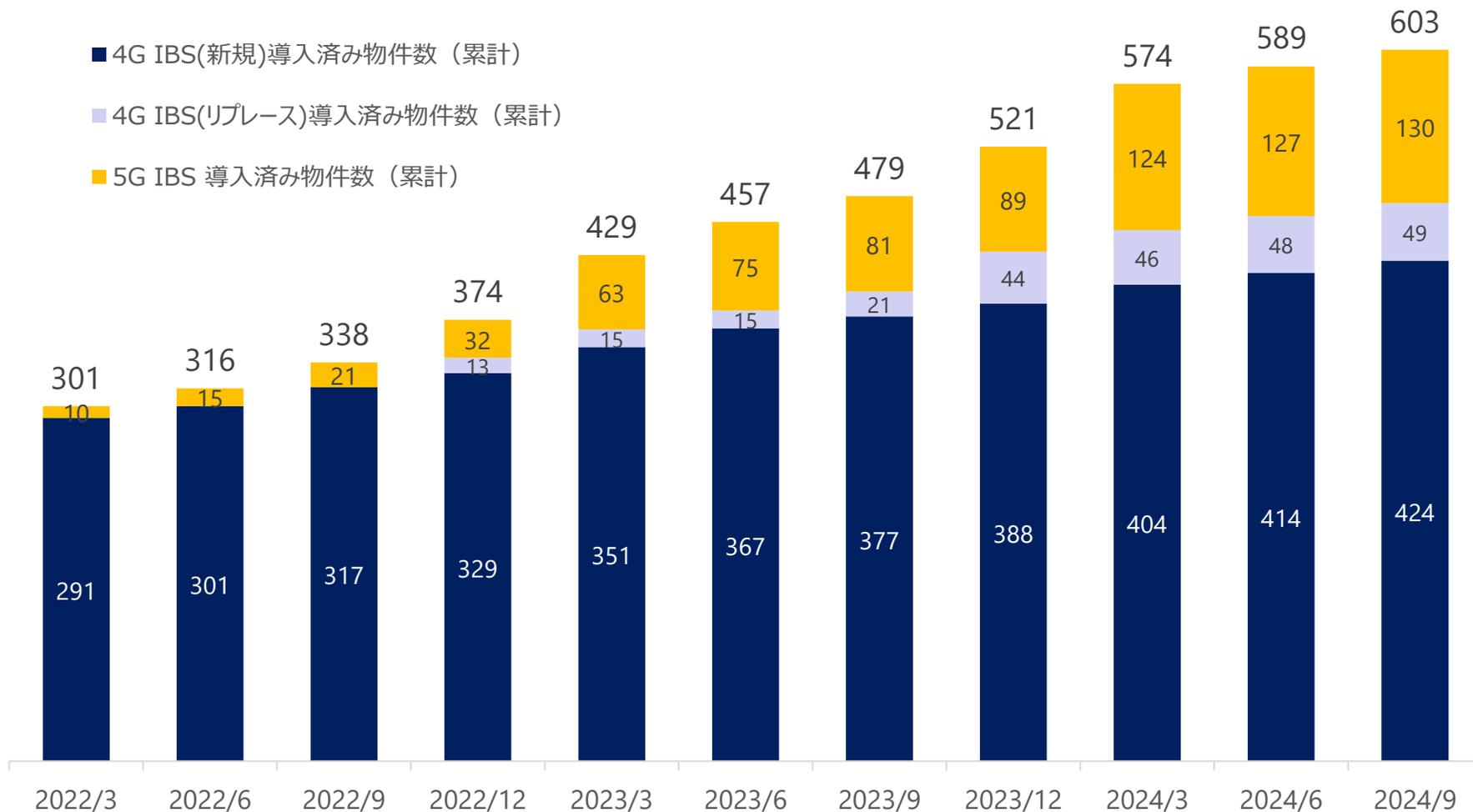
■ 国内IBS ■ タワー ■ 海外IBS ■ ソリューション



注： 四半期毎の事業別の売上高数値内訳は未監査。

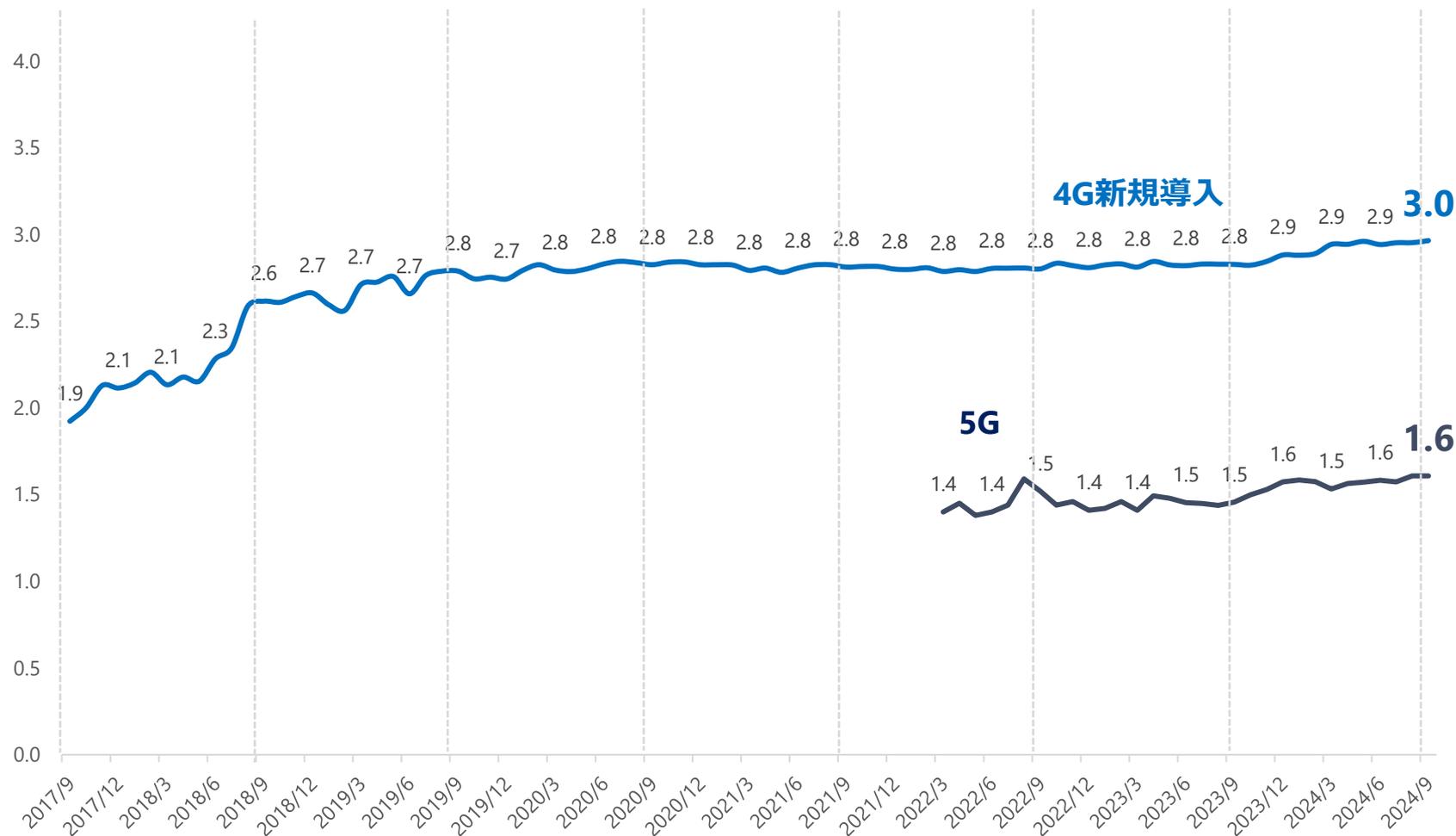
① 導入済物件数の推移（国内IBS事業）

- 2024年度上期において、4G IBS（新規導入）は**20物件**、4G IBS（リプレイス）は**3物件**、5G IBSは**6物件**の計29物件の拡大



① Tenancy Ratio*¹の推移（国内IBS事業）

(x) ● Tenancy Ratio（平均参画キャリア数*²）は、4G（新規導入）で3.0xに上昇



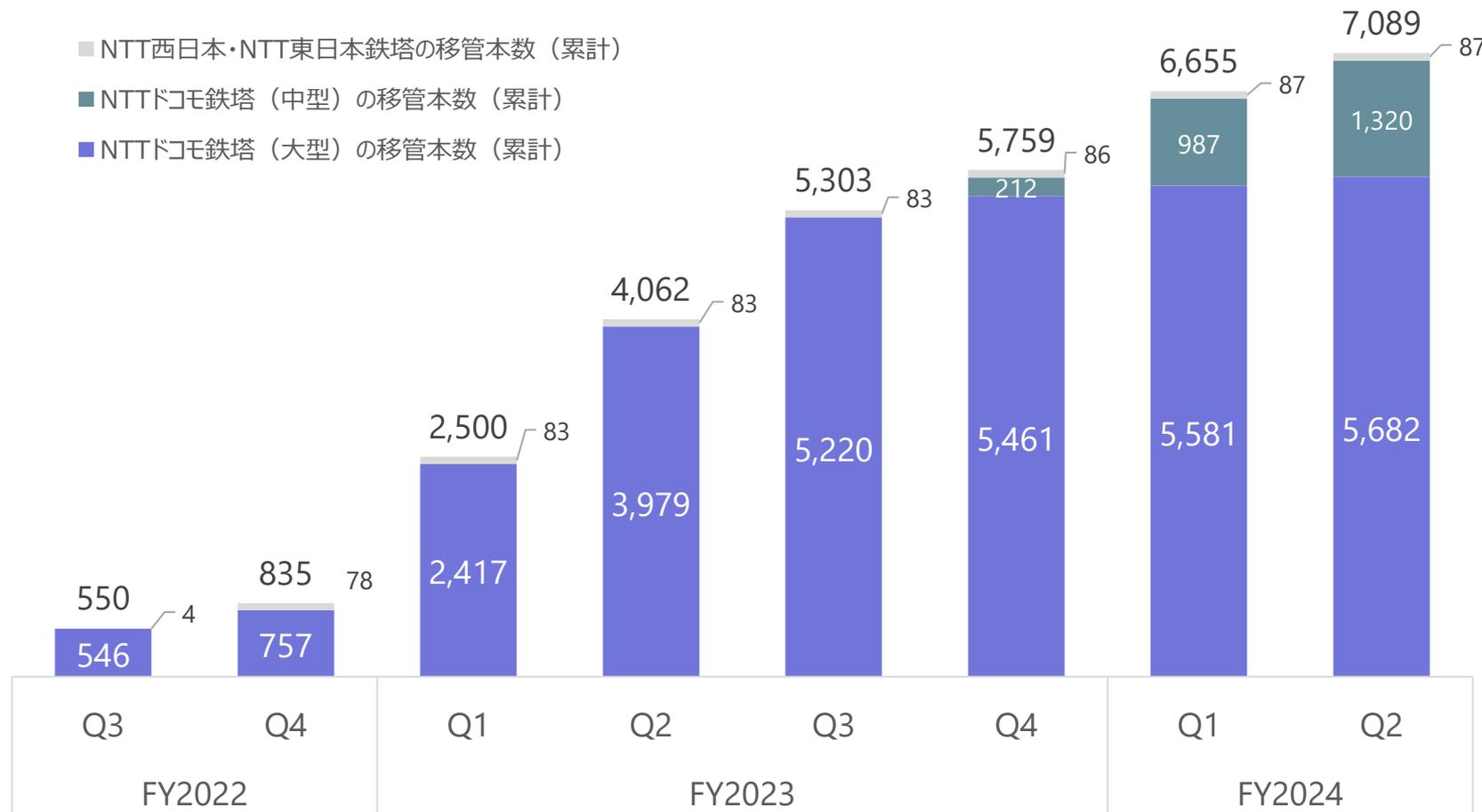
* 1: テナシー・レシオ=1物件あたりの平均参画携帯キャリア数（累計導入済み物件における数値）

* 2: 4Gリブレースはサービス開始直後であり、テナシーレシオは、アンカーテナントのみ（1.0）で推移のため、現時点の表においては対象外

① タワー移管の推移（タワー事業）

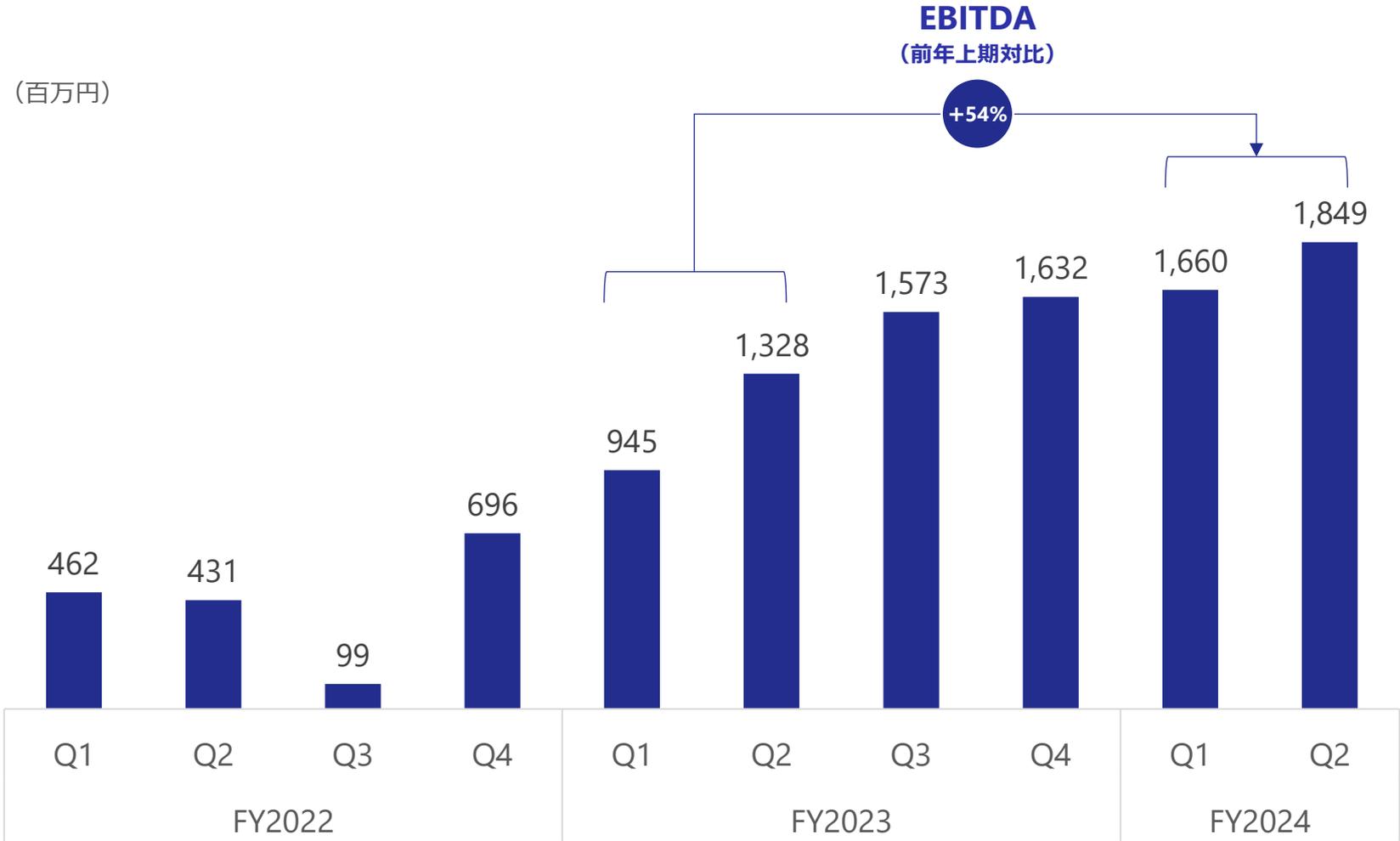
- 2024年度上期においては、合計**1,330本**の移管が完了し、累計移管本数は、**7,089本**に拡大

(本)



① 連結EBITDA*1の推移

- 連結EBITDAは、売上拡大と連動し、前年上期対比 +54%の増加



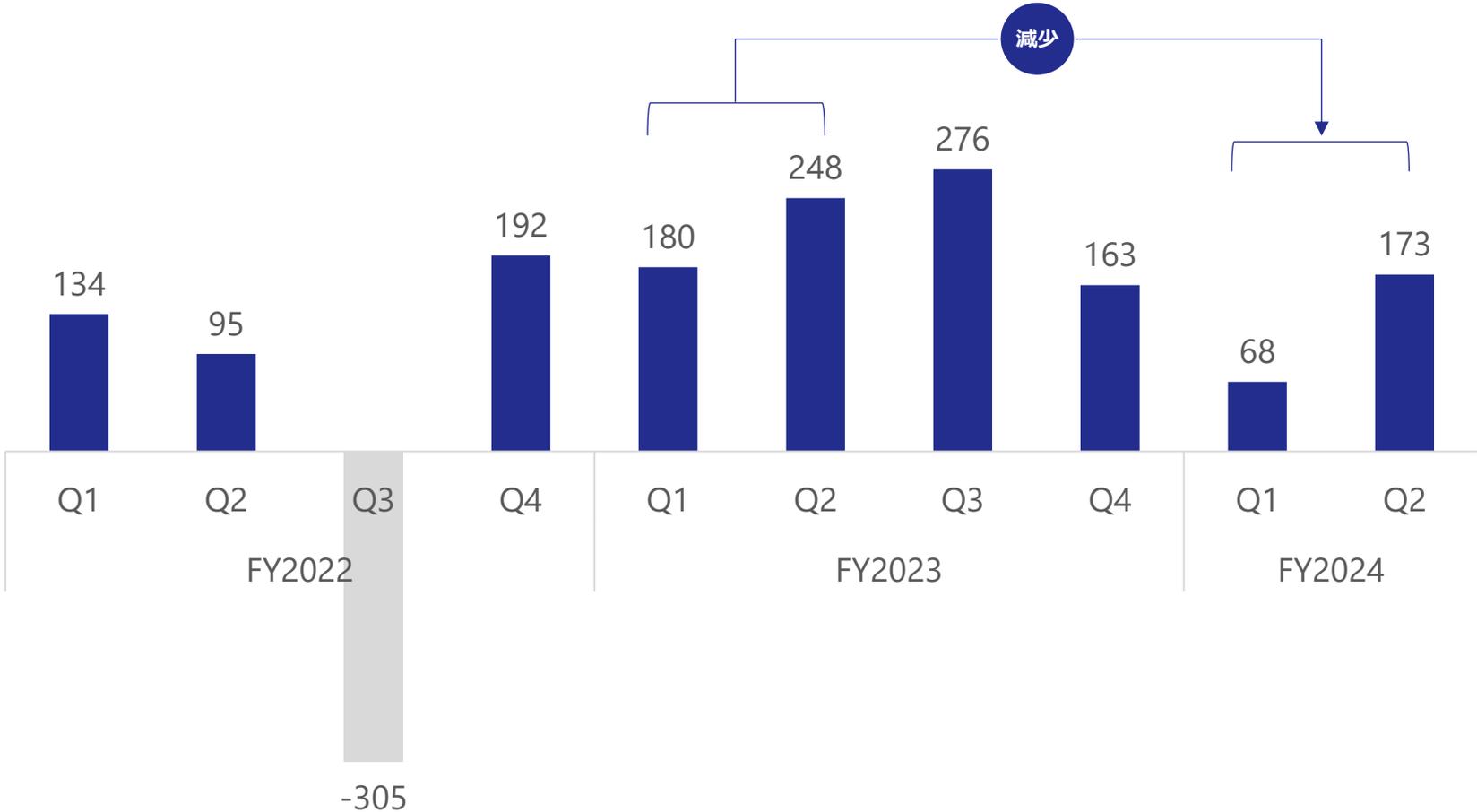
*1: EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却額+長期前払費用償却額

① 連結営業利益の推移

- 連結営業利益は、固定資産税の増加等により、前年上期対比で減少
- 前四半期対比では、タワー売上の拡大に加えて、Q1の一時的なコストの増加、Q2の一過性売上の計上等の影響により、Q2がQ1を上回り推移

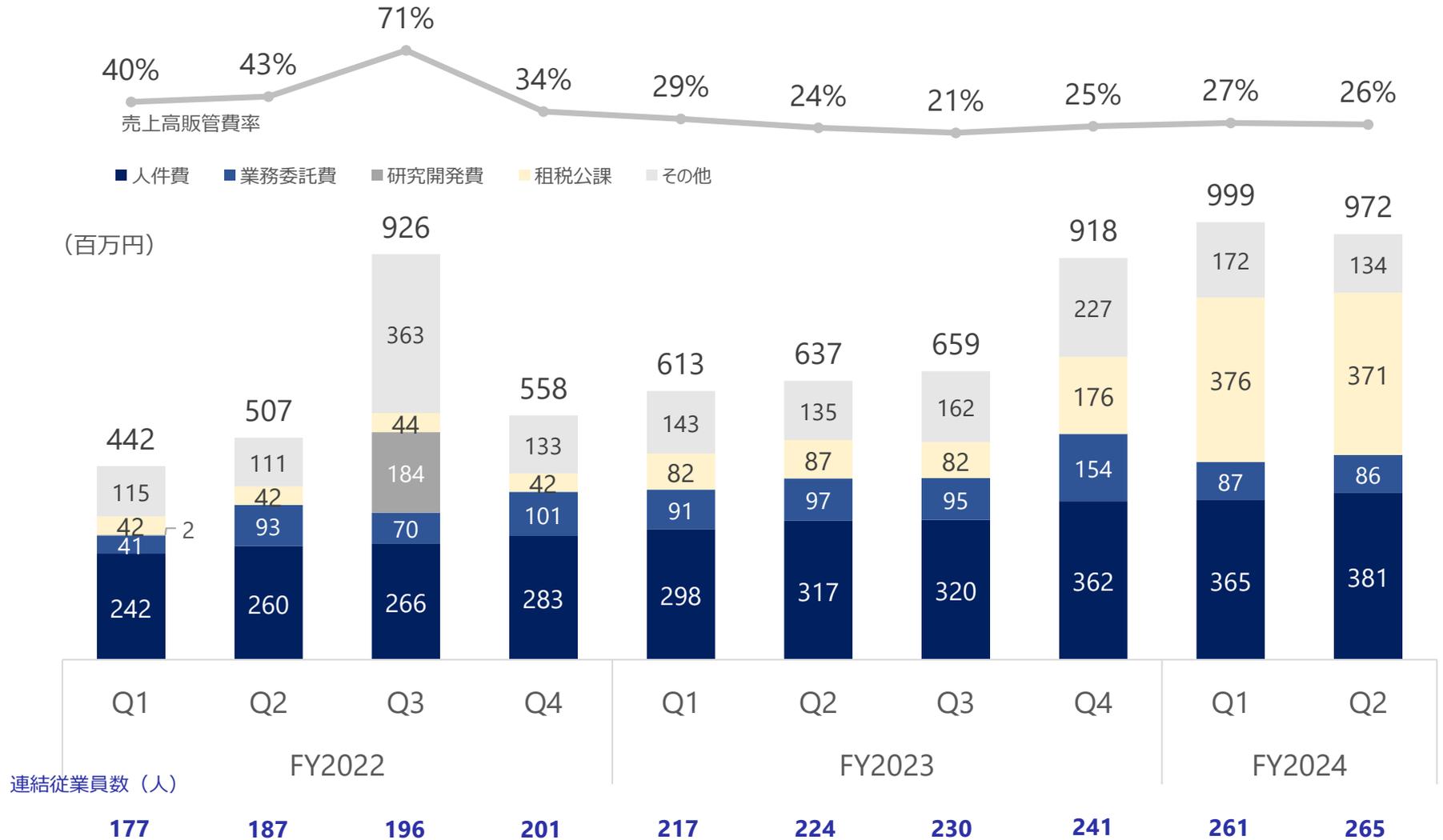
(百万円)

営業利益
(前年上期対比)



① 連結販売費及び一般管理費の推移

- 主に固定資産税の増加により、租税公課が拡大
- Q1に支払報酬の増加（決算費用等の一時的な増加）があったため、販管費合計はQ2で微減



① <参考> 連結売上高の増減要因

- タワー事業：移管本数の拡大により、売上が伸長
- 国内IBS事業：5G IBS及び4Gリプレースの拡大、一過性工事案件により、売上が伸長
- その他事業：Wi-Fi等の一過性工事案件により売上が伸長

(百万円)

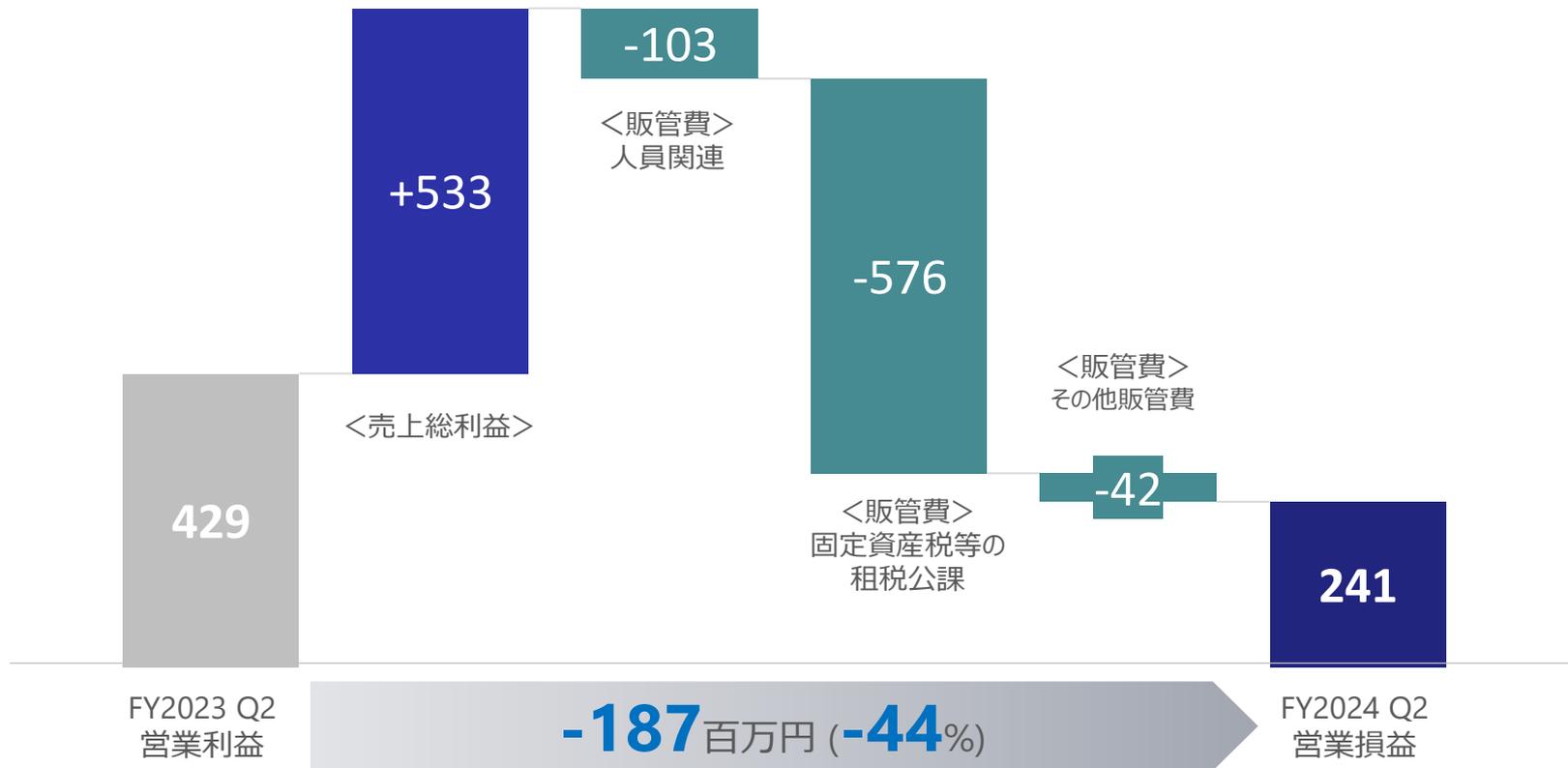


注：事業別の売上高数値内訳は未監査。

① <参考> 連結営業利益の増減要因

- 国内IBS事業、タワー事業の拡大により、売上総利益が増加
- 販管費は、事業拡大に伴い、人員関連費用、固定資産税、資本割等の費用が増加

(百万円)





目次

1. 2024年度 上期業績
2. 今後の成長に向けた取り組み
3. 2024年度 通期予想 (8/14公表資料再掲)
4. Q&A

上期進捗



2014年9月の第1号案件
「イオンモール多摩平の森」

国内IBSのサービス開始から10周年

国内IBSのサービスが2014年9月の第1号案件から
10周年を迎え、導入物件数も**600物件超**に拡大

テナンシーレシオが3.0xに上昇

4G IBS(新規導入)のテナンシーレシオが、サービス開始以来
初の3.0xを達成

今後の見通し

下期より、4G IBS(リプレース)の導入拡大が加速

- 下期（特にQ4）にかけて、4G IBS（リプレース）の導入が加速
- 来期より、追加で獲得したパイプライン（300物件超）を含め、**更なる拡大の見通し**

上期進捗



ドコモから取得したタワーのシェアリング運用を開始

ドコモから取得した通信鉄塔のうち、静岡県に所在するタワーにて
携帯キャリアによるタワーシェアリングを開始

タワーシェアリングを開始した静岡県のタワー

今後の見通し

携帯キャリアやその他のテナントによる、タワーシェアリングの拡大へ

- 10月下旬に金融機関向け通信インフラ企業によるタワー利用が開始
- 携帯キャリア（上記とは別のMNO）においても、利用に関する契約締結が完了

テナンシーレシオの向上に期初想定より時間がかかっているものの、
着実な実績の積み上げによりタワーシェアリングの効果を訴求し、事業拡大に繋げていく

TOBが成立

10月10日、DigitalBridgeによるTOBが成立
(応募株券等の総数 19,459,712株、75.62%)

携帯キャリアをはじめとする顧客への更なる貢献

携帯キャリア各社をはじめ、当社サービスをご利用いただいている
全ての顧客に更に貢献できるよう、サービスの向上・革新に努めていく

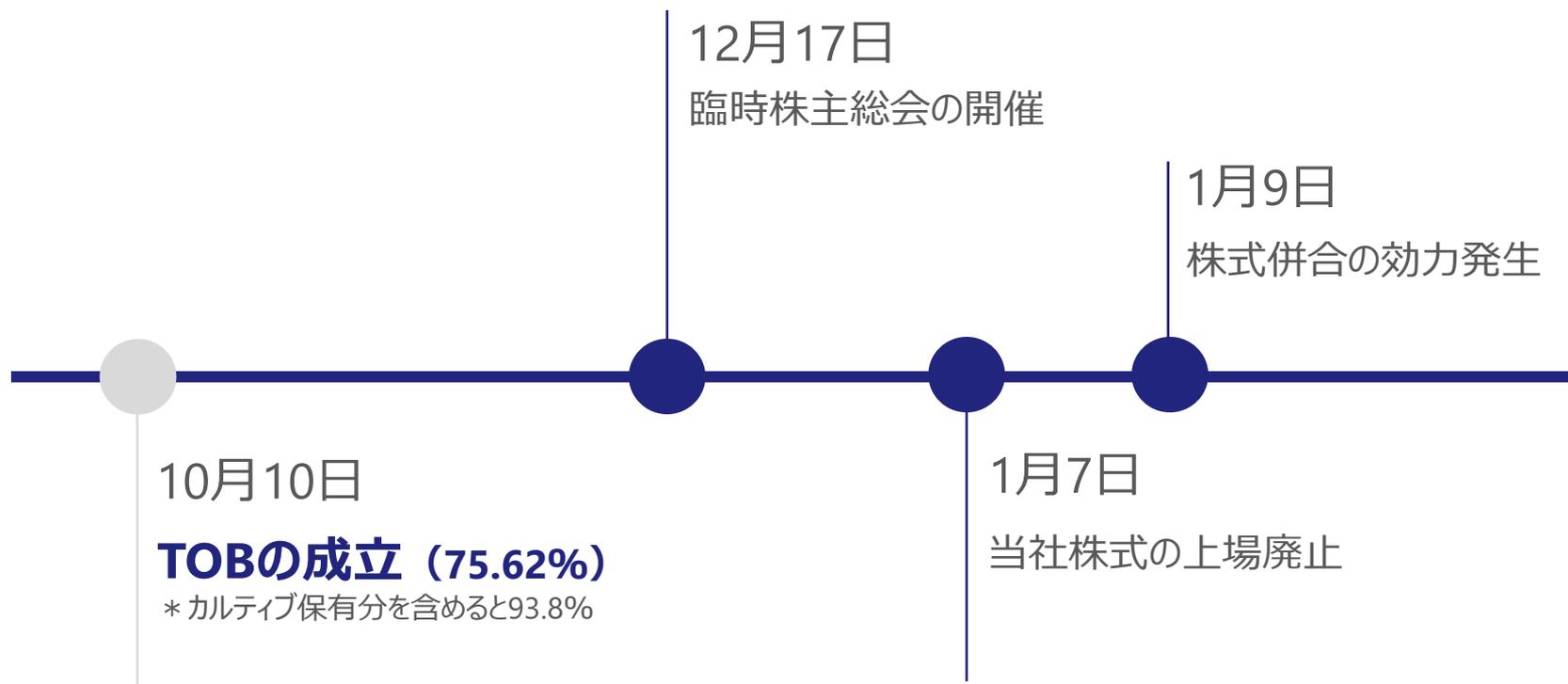
上場廃止後も経営体制を維持

上場廃止後も、現状の経営体制を維持し、代表取締役社長である
田中敦史を含めた現経営陣が、引き続きJTOWERの経営を主導

② TOB成立後のスケジュール

2024年

2025年



TOB成立後のスケジュール



目次

1. 2024年度 上期業績
2. 今後の成長に向けた取り組み
3. 2024年度 通期予想 (8/14公表資料再掲)
4. Q&A

③ 2024年度 通期業績予想（8/14公表）

(百万円)	2023年度	2024年度		
	通期実績	通期予想	前年同期比	
			増減	%
売上高	11,519	15,700	+4,181	+36.3%
EBITDA *1	5,478	7,000	+1,522	+27.7%
<i>EBITDA マージン</i>	47.6%	44.6%	- 3.0pt	—
営業利益	868	450	- 418	-48.3%
<i>営業利益率</i>	7.5%	2.9%	- 4.7pt	—
経常利益	-102	-1,000	- 898	—
非支配株主に帰属する当期純利益*2	24	-600	- 624	—
親会社株主に帰属する当期純利益	-200	-1,320	- 1,120	—
設備投資に係る投資CF	-89,843	-29,800	+60,043	—

*1: EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却額+長期前払費用償却額

*2: 非支配株主に帰属する当期純損利益のマイナス表記は損失



目次

1. 2024年度 上期業績
2. 今後の成長に向けた取り組み
3. 2024年度 通期予想 (8/14公表資料再掲)
4. Q&A

分類	質問	回答
連結 貸借対照表	現預金が期初と比較して、約53億円減少しているが、理由は何か？	SPC1シニアローンの早期弁済（ドローダウン期間中にプラスになったキャッシュの調整分であり、契約で予め決まっていたもの）及び今後の4G IBS（リプレース）の拡大に向けた共用装置の調達によるキャッシュアウトが主な要因。
タワー	上期において、NTT東西鉄塔の移管が殆ど進んでいないが、理由は何か？	年度内の移管に向けて取り組んでいるが、利用事業者との調整や、NTT東西との調整事項に時間を要している。
タワー	ドコモ中型鉄塔は残り232本となったが、下期の移管ペースは？	大型鉄塔と同様に、Q3より難航案件の割合が増えて、移管ペースが緩やかになってくる見通し。
その他	非上場化に際し、経営体制や事業運営はどのようになっていくのか？	上場廃止後も、現状の経営体制を維持し、総務省をはじめとする監督官庁、携帯キャリア各社をはじめとする通信事業者とのコミュニケーションを密にし、更に連携を深めていくことで、日本の通信インフラを守り、通信業界の発展に貢献できるよう努めていく。
その他	今後は非上場となるが、情報開示は行わないのか？	上場と非上場では、開示する内容は異なってくるが、全てのステイクホルダーに対して、当社の成長をお示しできる開示については検討したい。また、日本におけるインフラシェアリングのリーディングカンパニーとして、事業環境や市場への理解を促進する発信は、引き続き積極的に行っていく。

本資料は、株式会社 J T O W E R（以下「当社」といいます。）の企業情報等の提供を目的として作成されたものであり、当社有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。

本資料に記載される業界、市場動向または経済情勢等の当社以外に関する情報は、現時点で入手可能な公開情報等に基づいて作成しているものであり、当社がこれらの情報の正確性、合理性及び適切性等について保証するものではありません。

また、本資料に記載される当社の目標、計画、見積もり、予測、予想その他の将来情報は、当社が現在利用可能な情報並びに本資料の作成時点における当社の判断及び仮定に基づくものであり、様々なリスクや不確定要素によって、将来における当社の業績が、これらの将来情報と大幅に異なる場合があります。



日本から、
世界最先端の
インフラシェアリングを。

JTOWER